

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	産業研究所
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学内教員を核とした共同研究を常時3プロジェクト設置し、加えて毎年臨時的プロジェクトを1つ以上運営する。	→各研究プロジェクトの定例研究会のうち公開型を2回以上開催する。終了後1年以内に研究成果の公刊。	A
2. 常時運営する3つの共同研究のテーマは、いずれも国際性、あるいは地域連携と結びついた内容とする。	→プロジェクトは国際性か社会連携性のあるテーマ設定とそれにふさわしいメンバー（学外者を必須）を編成。	A
3. EUインスティテュート関西事業、EU情報センター活動、および日中経済シンポジウムを毎年運営する。	→産業研究所の運営するEUIJ関西シンポジウム、日中経済シンポジウムを毎年各1回以上開催。	A
4. 産業研究所の共同研究活動の成果は、毎年出版物として公刊するのみでなく、講演会で教育活動や社会に還元する。	→学外公開型講演会・セミナーを年10回以上開催。東京での講演会を毎年開催し、首都圏での学術情報発信を行う。	B
5. 経済・産業学術情報データベースを維持・更新して、研究者、学生に利用（検索）提供し、研究活動に寄与する。	→データベースに、毎年8千件以上の論文記事データの追加入力。	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

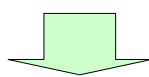
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目0.0.1	(理念・目的) 産業研究所は、社会科学系の研究所として、学際的、実証的、総合的なアプローチによって、経済や産業などに関する現実的な課題の研究を行い、もって研究と現場の橋渡しの機能を果たし、社会に貢献することを使命とする。 (現状説明) 産業研究所が運営する3つの共同研究プロジェクト（『関西経済と景気循環指数の研究』『アジアにおける市場性と産業競争力』『日本の国際開発援助事業』2010.4.1.現在）はいずれも理念・目的に合わせて正常に運営されており、テーマは国際性、社会連携性を持ったものである。これは本学の新基本構想のめざす大学像とも適っている。
☆ 小項目0.0.2	(現状説明) 産業研究所は、日常的な研究活動や研究成果を通じて、学内や社会へ存在を示している。公開のシンポジウム、講演会、研究会などは大学のホームページや学生の教学WEBで広報し、研究成果物は学内外へ配付している。
☆ 小項目0.0.3	(現状説明) 産業研究所運営委員会で毎年事業報告を行い、意見を求めている。産業研究所規程によって、所長は毎年学長へ事業報告を行っており、5年ごと学長から産業研究所事業の評価を受けることになっている。
☆ その他	産業研究所は、学内の学部・研究科横断の共同研究活動を基礎にしている。その研究成果物である『産研叢書』は、過去10年間に2回表彰を受けている。近年は、EUIJ関西事業や日中経済シンポジウム、東京講演会など多彩な活動を展開しているが、それは小規模で迅速な意思決定ができる組織も大いに役立っている。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目0.0.1	国際性のある研究活動・事業（EUIJ関西事業、日中経済シンポジウム）が毎年継続され多くの研究成果を得ている。社会連携性のある研究活動（関西生産性本部受託事業「生産性向上と雇用問題」、北海道での『「むらの魅力」の経済学』出版記念シンポジウム）も公開シンポなどで研究内容について社会人とのフィードバックを行っている。
★ 小項目0.0.2	シンポジウム、講演会、研究会を公開型にすることにより、大学構成員や社会人に研究成果が還元されている。研究成果物『産研叢書』『産研論集』は公刊され、学界や社会へ貢献するとともに学外評価の俎上に乗っている。
小項目0.0.3	学長への事業報告を毎年まとめて提出し、5年ごとの評価を受ける態勢をとっている。
その他	学外機関（神戸大学、大阪大学、大阪商工会議所、関西生産性本部、日中経済貿易センター、大阪医薬品協会、関西ニュービジネス協議会、国際社会貢献センターなど）との連携で、研究活動の視野を広げている。



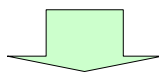
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目0.0.1	EUや中国以外に、東南アジアやインドに視点をおく研究活動や社会福祉をテーマにする研究活動を新設している。
★ 小項目0.0.2	産業研究所ホームページをリニューアルし広報に役立てる。国際社会貢献センター（A B I C）との連携を強め、研究会講師の推薦や、学外での講演会の聴衆確保に支援を求める。
小項目0.0.3	産業研究所ホームページに、事業内容、活動実績を具体的に公表する。
その他	学外機関との人的ネットワークを形成し、研究活動の次のステップに役立てる。

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目0.0.1	EUIJ関西事業や日中経済シンポジウム事業の内容（テーマ）の硬直化
★ 小項目0.0.2	産業研究所設立の母体となった経済学部、商学部以外の学部・研究科で、活動内容が浸透していない面がある。
小項目0.0.3	産業研究所運営において、所長と運営委員との間で十分に討議する時間をとるのが難しい。
その他	2013年度の図書資料業務の大学図書館移管への準備態勢が十分でない。



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目0.0.1	国外、学外との連携事業の中心となる研究者の後継を養成、確保する。
★ 小項目0.0.2	産業研究所の取り扱うテーマを、従来の経済と産業から、社会科学分野へと広げるようにする。
小項目0.0.3	十分な討議時間の確保できる運営委員会を休暇期間中（9月中旬、3月など）に開催する。
その他	図書資料業務移管をスケジュール化させる。

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	EUIJ関西事業や日中経済シンポジウム事業、東京講演会など、アグレッシブな活動展開は学内でも認知度が高まっている。一方で、これらも年数を重ね、今後持続可能な運営態勢を考える段階に来ている。
--------------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

- それぞれの項目で効果も上がっており今後ますますの伸長が期待されます。
- 目標・指標および小項目ごとの現状説明、さらに個別の事項についても、具体的に良く書き込まれていますが、いずれの内容も、「理念・目的」という大項目の範囲を離れて、具体的な研究活動内容に入り込みすぎています。
- 小項目で求められていることについては現状で十分な様子がうかがえます。
- 改善すべき事項については、改善方策をさらに(期限、回数など)具体的に掲げることで、より取り組みやすくなると思われます。
- 2009年度に設定した目標は、方針に近いと思われ、また単年度で設定されているので、中期的な目標を設定されることが望まれます。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 《小項目ごとの現状説明》0.0.1の追加
(現状説明)
状況変化に見合って、今後に中期目標の設定はありえる。

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)ー理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)ー総合コース『関学』学』の履修者数

<個別的な指標>
